

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年11月8日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670200593号
法人名	川薩福祉企業組合
事業所名	ケアホーム田海園
所在地	鹿児島県薩摩川内市城上町9750番地7 (電話) 0996-21-9338
自己評価作成日	平成24年11月8日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年11月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりの性格や予想される行動等を把握し、その方にとって安心できると思われる環境づくりや支援をしており、ご家族様には新たな発見や日頃の様子などを電話などで伝えて安心していただくように努めている。それぞれの主治医は定期的な往診をしてくださるが、普段と状態が違ふと思われた時などは主治医に報告・相談、必要時には受診するなどして体調変化の早期発見をこころがけている。

毎週火曜日と土曜日は隣接する通所介護との合同レクリエーションを実施し、地域の利用者様とグループホーム利用者様との交流の場となっており、日曜日には隣接する有料老人ホームの入居者様と一緒に誕生会などを実施して楽しく過ごせる機会を設けている。

今後も、理念である『目配り・気配り・思いやり』を忘れず、利用者様と寄り添い、和やかな雰囲気の中で安心した時を過ごしていただけるようにしていきたい。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

薩摩川内市郊外、川内川の上流、田海地区に建てられている。鹿児島県の企業組合として初めて介護事業に乗り出し、他にもデイサービス・居宅介護支援事業所・訪問介護事業所・有料老人ホーム等を運営して高齢者福祉の一端を担っている。

隣接するデイサービスとは定期的な合同レクリエーションや日常的に自由に行き来が出来るため地域住民や友人知人との交流の場となっている。

入居後も定期的に出身地の民生委員や友人の訪問がある利用者やこれまでの行きつけの美容院利用、外泊・墓参りなど家族の協力ももらいながらなじみの人や場と関係が途切れないように支援している。

職員体制を工夫して、入浴は出来るだけ家庭と同じように夕方近くを設定し、気持ちよく夕食と睡眠ができるように支援している。

個人の尊厳と生活レベルの向上に向けておむつ使用はしない方針で排せつ支援にも力をいれており、時間を書き込む排せつチェック表の活用で個々の排せつパターンを把握し、トイレへの誘導や声かけの工夫で日中はほぼ全員が布パンツで過ごしている。入居後に改善された利用者も多く、可能な限り布パンツのみで過ごせるように、トイレでの排せつ及び排せつの自立に向けた支援を行っている。

管理者・職員は利用者の思いを大切にして利用者主体のケアに努めている。「安心して任せられる」「利用者への接し方・ことば使いなど適切である」などの家族の声も聞かれ、家族との信頼関係が何える。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、理念である『目配り・気配り・思いやり』を徹底すれば事故等も未然に防ぐことができる、と考えながらサービスを実践している。	法人全体の理念をグループホームの理念ともしており、全職員に介護の原点である理念の統一を図っている。理念は玄関に掲示し、また毎月の職員会議で確認することがあり、理念の共有と実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接するデイサービス利用者との交流の場として合同レクリエーションを実施し、中学生の職場体験やボランティアの踊り、小学生の慰問受け入れも行っており、『田海園だより』を近隣の学校や関係所に配布するなどつながりを持つようにしている。	地元中学生の職場体験学習の受け入れや校区の小学生によるハンドベル演奏など子どもたちとの交流が盛んである。災害時には田海園グループ全体でも地域住民にホームを開放しての受け入れ体制がある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	行政主体の認知症サポーター研修会に参加しており、中学生の職場体験やホームヘルパー実習生受け入れも行ってている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。当園での取り組みや問題点などを議題案に取り上げ、出席者の意見をいただきながらサービス向上に取り組んでいる。	家族代表・自治会代表・消防署員・行政などの参加を得て2ヶ月に1回開催している。活動報告・経過報告・地域との交流状況・ときには感染症や暑さ対策など自施設で行っている内容を話している。議事内容は季刊誌に明記して報告している。今後はより多くのホームの協力者の確保のためにも幅広い分野の参加者を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点・不明点は市担当者に聞くなどして、ケアサービス改善に取り組んでいる。	生活保護担当者との連携や運営推進会議を通じてホームの実情を伝え、問題点なども話し合っている。長寿のお祝いに地域振興課の訪問もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を実施するなどして、職員は身体拘束の具体的な行為を理解している。日中の施設内は施錠せず、利用者が自由に動けるようにしており、必要時はさりげなく中庭などへ一緒に出ている。	身体拘束・虐待についてはホームで実例がなくても禁止の対象となる具体的な行為を職員全員が正しく理解できるように、あらゆる事例を用いて定期的な勉強会を行っている。日中は玄関の施錠はせずに職員間の連携と見守りで安全で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会では資料に沿って虐待について学ぶ機会を持っており、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などの案内があれば出席して学びたいが、案内も少なく、活用する機会がない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書等は、利用開始時に説明し、理解・納得をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から相談があった場合は、『苦情・相談記録』に記載し全職員へ通知・改善するよう努力している。面会時や電話をかけた際にも何か困りごとはないか、利用者や家族に声をかけている。	重要事項説明書に窓口を明記し「苦情・相談委員会」を設置してサービス向上や運営に反映させている。日常の面会時や電話連絡時に意見・要望を聞き出すように努め、家族との信頼関係が築けるように心がけている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催する職員会議やその他の機会代表者への要望はないか聞く機会を設け、運営に反映させている。	毎月の職員会議は全員参加で行っており、職員からの意見・提案を聞く機会にもなっている。また、働きながらレベルアップに向けた資格取得の支援も行っている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績等を把握し、給与等に反映させている。冷暖房完備の休憩室や喫煙所を設け、一息つける環境づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員育成の必要性を理解し、外部研修等への参加を促しており、参加者は研修報告書を提出して、他職員に伝達している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市の介護保険サービス提供事業者連絡会等や、他の研修会等への参加時に同業者との交流が持たれている。他施設の良いと思われる部分は積極的に取り入れ、サービス質向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とじっくり話す機会を設けたり行動を気にかけるなどして不安なことを探し、よりよい信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が相談にみえた時は、困り事や要望を受け止め、その後の様子や新たにわかったこと等を家族に電話で伝え、入所後の心配事や希望等も聞くようにして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の相談やアセスメント等で心配事や希望等を聴き、家族や本人の意向に沿うように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩である、との考えを職員は持っており、得意なことや昔の言葉・生活の知恵などを教えていただき、職員も学び支えあう関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者や家族にとって一番良い形は何なのかを一緒に考え、理想的で双方共に安心できる形になるような関係作りを築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や、外泊・墓参り等行きは、家族や知人と一緒に行けるよう体調管理にも注意しながら支援に努めている。	出身地の民生委員と友人の定期的な訪問がある利用者や入居前から使っていたなじみの美容室利用、外泊・墓参りなど家族の協力ももらいながらなじみの人や場との関係が途切れないように支援している。隣接するデイサービス利用の友人・知人との交流もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員全員が利用者一人一人の性格等を把握し気の合う者同士が関わり合えるような場を作り、職員が調整役となることで、もめごとを最小限におさえることができている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設転移や入院等により退所された方や家族についても、適時状況等を尋ねるなどして関係を継続している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が個々の性格や動きを把握し、望む暮らしに近いものになるよう努めている。困難な場合は少しずつやり方を変え、その方に最も適していると思われる方法を検討している。	日常の会話や表情などから情報を拾い上げて職員間で共有し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合でも個性を把握して本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人の面会時に話を聞いたりしながらわかる範囲内でこれまでの生活パターンを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活パターンや前日の様子・夜間の状況などを把握することで、その日の体調やできそうなことなども把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族や主治医の意見を聞き、随時職員からの情報を得るなどして、本人本位の介護計画を作成しており、3ヶ月後にモニタリング、6ヶ月後にアセスメントして計画の見直しをしている。状態変化の場合は、随時見直しをしている。	本人・家族の暮らし方の希望や意見を聞いて個々に応じた介護計画を作成している。本人の希望による外出を散歩や買い物を日常的に支援できるようにサービスに取り入れている利用者や定期的な家族の面会や電話での会話で離れていても寂しくないように支援している利用者もいる。状態変化時は随時計画の見直しを行い、変化がなくても定期的(6ヶ月)に見直しを行って現状に即した介護計画を作成している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を個々の記録に残している。普段と違った言動等があれば記録、連絡ノートにも記載して職員間で情報共有、必要時は主治医へ相談するなどして計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の健康状態を把握し、医療連携体制を活かして身体変化の早期発見につなげている。又、家族が同行できない場合の病院受診なども支援している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校慰問時には一緒にレクリエーションをしたり、職場体験受け入れをしている近くの中学生には利用者が近所の様子を聞いたりしており、季刊だよりもボランティア協力を呼びかけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医受診を支援しているが、病状や状態によっては家族と話し合い、主治医と連携して病状にあった医療機関受診を支援している。家族が受診付き添いできない場合は職員が代行している。	本人・家族の希望のかかりつけ医の受診を支援している。病状や状態によっては主治医と連携して病状に合った医療機関受診を支援している。本人・家族の状況に応じて受診同行も柔軟に対応しており、受診後は随時結果を報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の状態を把握することで、普段と違う状態を早期発見、連携をとっている主治医に報告し、必要時は夜中でも往診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中の利用者に面会する際は担当看護師に状態を聞いたり、入院先の医師とも話をして、どの程度まで回復したら園での生活が可能かを伝えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にも説明しているが、重度化が予想される場合は早い段階で主治医から家族へ話をしていただき、事業所としてできるのはどこまでかを説明している。	重度化や終末期についてはホームの方針を入居時に説明している。入居後は利用者の状態変化に伴って主治医の判断のもと、家族と方向性を話し合い、ホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、職員会議時に勉強会を行っている。消防局による救急救命は、不定期に計画がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防局へ依頼し避難訓練や消火訓練を実施しており、避難訓練は利用者にも参加していただいている。まだ十分ではないが、地域へも協力を呼びかけている。	年2回消防署の協力で昼想定で避難訓練を実施している。隣接の有料老人ホーム・デイサービスとは協力関係が築かれている。自動通報システムとスプリンクラーは設置済みで備蓄も確保されている。今後は夜間想定での避難訓練の実施を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を理解し、誇りやプライバシー・尊厳を損ねないよう配慮しながら声かけや対応を行っている。	利用者を人生の先輩として敬い、個々の性格を把握して誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。日常の業務でも気づいたら都度注意し合って職員の資質向上に向けて取り組んでいる。「利用者への接し方・ことば使い等が適切である」との家族からの評価もあった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の顔を見ながら本人が決めることができるような声かけをし、納得できるような会話になるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、それぞれの体調や気分に合わせて過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	園行事や家族との外出時は、職員と一緒に衣類等を楽しみながら選べるよう支援している。美容師が来園し髪カットするが、なじみの美容室がある利用者には家族・知人と一緒に外出していただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の調子の良い時には職員と一緒に器を選び盛り付けており、職員も同じテーブルにつき楽しく食事ができるような雰囲気づくりをしている。	利用者の力量に応じて盛り付けや片づけなど手伝ってもらっている。弁当持参での花見やソーメン流しに出かけて外での食事も楽しめるように支援している。また、ホーム内でもときには気分を変えて「喫茶店」を開いて雰囲気味わえるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がたてたバランスよい食事を無理強いすることなくある程度の量は食べていただいている。水分が少ない利用者には、常に準備しているお茶などを随時の声かけで飲んでいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の利用者には歯磨きの声かけをしている。介助が必要な方にはお茶を入れたコップやうがい受けを準備し、一つ一つ声かけしながら口腔内が清潔に保てるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用することで個々のパターンを把握、タイミングを合わせた排泄声かけや介助をすることで、尿パットに頼らず気持ちよくトイレで排泄できるよう支援している。	排せつ時間を細かく記録する排せつチェック表の活用で個々の排せつパターンを把握してトイレでの排せつや自立に向けた支援を行っている。尊厳や生活レベルの向上の為にもおむつ使用はしない方針で入居時、おむつや紙パンツ使用だった利用者も職員の声かけや誘導により改善に導いている。現在、日中はほぼ全員が布パンツで過ごしており、維持できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服用している緩下剤の内容を理解し水分を多く摂るようすすめたり、歩行できない利用者については車椅子自操や介助でなるべく立ったり座ったりしていただくなどして、自然な排便があるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的には15時半頃より設定しているが、入浴の気分ではないと言う利用者や長く入浴できていない利用者については時間にとられず、入浴したいという気分になった時に入浴できるような支援をしている。	出来るだけ家庭と同じ時間帯で入浴できるように職員体制を工夫して夕方近くを入浴の時間帯としている。基本は一日おきであるが、毎日でも可能で利用者の希望や体調に合わせて柔軟に支援している。家族の協力で温泉に行く利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人お好きな場所でくつろいでいただくよう支援している。日中は居室で休むこともあるが、閉じこもりにはなっていない。夜間は眠りを妨げることなく安心して休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの薬の目的などを理解しており、状態観察した結果は医師へ報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の性格等を把握してできる作業をお願いしており、そうめん流し・桜などの花見など出かける楽しみを味わっていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時や気分に応じて、中庭への散歩を支援し、季節の花見やそうめん流しなどへ出かける機会をつくっている。	ドライブ、散歩、買い物などその日の希望や天候に応じて外出できるように支援している。他にも、こいのぼり見学・駅伝見学・花見・そうめん流し・フラワーロード見学などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物は職員に付き添う形で行っていただくことが多いが、小額のお金を持ち、好きな物を買っていただけるような支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があった場合には職員が電話をかけ、利用者に話をしている。家族宛に暑中見舞いや年賀状などを利用者を書いていただき、家族にも喜んでいただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花などを飾り、季節感を感じることができるよう工夫している。毎月の壁画作成では、時期に合った物を作成できるよう支援した完成品を壁に飾り、廊下には外出や慰問の様子を写真で貼り出し、楽しく語らせるようにしている。	共用空間は広く、食事のテーブルとくつろぎのソファに分かれてメリハリのある生活が送れるように工夫されている。建物内は段差をなくし、転倒などの危険防止にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間兼食堂にはテーブルと椅子・ソファがあり、利用者はそれぞれのお気に入りの場所で気の合った方とくつろいでいただけるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の作品や家族の写真・人形などを飾り、利用者が安心して落ち着いた生活を送れるよう工夫している。	テレビ、位牌、人形、家族の写真など本人が安心して生活出来るようなじみのものやこだわりのものが持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ・浴室には手すりを設置、各場所にはわかりやすい札や暖簾などをかけて場所がわかる工夫をしている。		



**V アウトカム項目**

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない